

## 指導参考事例②

### テーマ：「大麻」が合法の国もあるらしい。

#### 1. 目標

「大麻」による健康被害について正しく理解する。「大麻」が合法である国もあるが、日本との違いについて学ぶ。「大麻」を乱用するとどうなるのか、自分や家族にどのような影響があるのかを学び、1回の過ちが取り返しのつかない結果を招くことを理解する。

また、実際に薬物の乱用を誘われたときにどのように断るかを自分で考えてみる。

#### 2. ねらい

##### 1) 「大麻」の作用について学ぶ。

①「大麻」には脳に作用する成分(テトラヒドロカンナビノール:THC)が含まれており、乱用すると、脱力感に襲われたり、イライラしたり、不安になったり、精神障害を起こしやすくなったり、学習能力や知的機能の低下を引き起こす等、非常に有害な薬物であることを正しく理解させる。

②「大麻」については、SNS等において、「身体への悪影響がない」「少量ならば依存性がない」等の誤った情報が流れている。実際には上記のような様々な悪影響を及ぼし、最初は少量でも徐々に使用量が増えてコントロールできなくなってしまったり、さらに刺激の強い覚醒剤等に手を出すようになることも多いことから、「ゲートウェイドラッグ」とも呼ばれることを学ばせる。

##### 2) 「大麻」を乱用した場合の「身体的影響」「精神的影響」「社会的影響」について話し合い、学ぶ。

①上記の身体的影響及び精神的影響だけでなく、それまでの学校生活や家庭生活が送れなくなる等、社会的影響も非常に大きいことを学ぶ。

3) 「大麻」の使用が合法である国があることを前提に、日本との違いを理解する。

①2018年、カナダで大麻が合法化された。大麻を国家が管理することにより、若年層の乱用を防ぐ、大麻の販売による資金が犯罪組織に渡らないようにする、安定的な税金が見込める、等の目的で合法化に踏み切った。

②その他にも、ベルギー、ポルトガル、スペイン等でも大麻が非犯罪化されている。アメリカでも、一部の州で使用が認められている。

③その背景には、大麻の「生涯経験率」の違いがある。15歳以上のカナダ人の41.5%が、これまでに1回でも大麻を経験したことがあると回答している。一方で、15～64歳の日本人のうち、大麻を1回でも経験したことがあるのは1.4%とのデータがある。カナダで乱用者全員を逮捕するのは現実的ではなく、日本とは社会情勢が全く異なる。(出典:厚生労働省、現在の薬物乱用の状況、2017年)

④アメリカの一部の州を例とした合法化の目的

○若年層の健康を守る(21歳未満への販売・譲渡は違法)

○栽培と販売に課税して州の財源とし、税金を薬物乱用防止対策に役立てる

○大麻を産業化して違法市場を減らす

⑤アメリカの一部の州を例とした合法化後の社会への影響

○大麻使用率 → 成人は激増、未成年者は微増

○大麻使用による救急搬送事例 → 増

○違法栽培、違法販売 → 激増

○健康被害 交通事故 運転手死亡者数のうちTHC陽性者数 → 増

救急搬送 0～5歳児 → 激増(製品流通増に伴う誤食増のため)

⑥社会情勢を勘案した上で、年齢制限、所持量制限、使用場所制限といった厳しい規制を設けた上で合法化したものであり、安全だから合法化したわけでは決していない。

⑦アメリカ、カナダ等においても未成年者による大麻の使用は認められておらず、未成年者による大麻の使用を合法化している国は現時点ではない。

4) 医療目的での大麻使用は多くの国で合法となっているが、嗜好目的(好み)での大麻使用を合法化しているのはごく一部の国であり、多くの国においては、法律により厳しく規制されている。

5) 実際に誘われた場合の「断り方」をひとつでも多く考える。課題を自分事にとらえて自身で考え、他者の意見を聞いて自分の考えを深める。

●「仲間外れにされるかも」「仲の良い友達だから断りづらい」と思うかもしれないが、心身に悪影響を及ぼすものを勧める人は、本当の仲間でも友達でもないことを理解する。

●「はっきり、きっぱり」断ると相手が諦める可能性が高くなる。

●言葉で断れない場合、少しでも早くその場から立ち去ることが重要。

6) 「大麻」をはじめとする薬物乱用は1回でもダメ。1回の過ちで、自分の夢や希望をつかめなくなる恐れがあることを学ぶ。

### ◆◆◆ コラム ◆◆◆

#### インターネットや SNS 上の大麻に関する誤情報

20歳未満の者による大麻の乱用が急増しています。その原因のひとつとして、インターネットや SNS 上で大麻に関する間違った情報が流布されており、未成年者がその誤情報を鵜呑みにしていることが挙げられています。

生徒に正確な知識を伝え、理解させたうえで、自身で判断ができるよう指導をお願いします。

× 「大麻は身体への悪影響がない」

× 「大麻が合法である国があるから、大麻は安全」

× 「大麻には依存性がない」

### 3. 進行表

時間	活動	教員の作業・留意点
3分	①目標を確認する。	○ワークシートを配付する。 ○目標を説明し、何を学習するかを明確にする。
19分 (22分)	②前述のスライド資料により基礎知識を学ぶ。	○スライド資料を配付して、講義形式で基礎知識を学ばせる。
5分 (27分)	③グループワーク ワークシートの「課題1」についてグループで話し合う。話し合いながら記入していく。	○スライド資料から得た基礎知識を活用し、「大麻」による作用を挙げてもらう。 ○それ以外にも、どんな悪い影響があるかについても話し合わせる。話し合いが進まない場合は、「身体的」「精神的」「社会的」な影響を考えるよう促す。
5分 (32分)	④グループワーク ワークシートの「課題2」についてグループで話し合う。 いくつかのグループに発表してもらう。	○「大麻」が合法である国があるという事実を前提に、日本との違いについて話し合う。 ○「大麻」を合法化した場合のデメリットについて考え、話し合ってもらおう。
15分 (47分)	⑤グループワーク ワークシートの「課題3」についてグループで話し合う。 いくつかのグループに発表してもらう。	○実際に誘われた場合の断り方をひとつでも多く考えさせ、聞かせる。 ○発表させる生徒を誰にするかも重要。クラスの盛上げ役が適任者。
3分 (50分)	⑥まとめ	○この時間の目標を再度説明し、薬物の乱用は1回でもダメと理解させる。 ○ワークシートを回収する。